

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

（市町村名：宇治市）

基本理念 2 自分らしく生涯健康でいきいきと暮らせるまちづくり

現状と課題

【現状】宇治市これからの高齢者に関する調査より（令和2年2月実施）

- 第1号被保険者で、「生きがいがある」と答えた人の割合は58.7%
- 第1号被保険者で、「いずれの会・グループにも参加していない人」の割合は男性が24.9%、女性が23.4%
- 第1号被保険者で、地域づくり活動に「参加したい」「参加してもよい」と答えた人の割合は42.7%

【課題】

- 検診の受診率・介護予防事業の参加率の向上を図るため、継続的かつ定期的な実施が必要。
- 健康づくりや介護予防について、市民自身が自主的な取組が行えるよう、継続的な普及啓発が必要。
- 保険事業と介護予防の一体的実施を進めるため、個別支援や通いの場等への積極的な関与が必要。

第8期における具体的な取組

- (1) 健康増進・生活習慣病予防・フレイル予防の推進
- (2) 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進
- (3) 介護予防・日常生活支援総合事業の充実及び推進

目標（事業内容、指標等）及び実績

	令和3年度		令和4年度		令和5年度 (計画値)
	(計画値)	(実績)	(計画値)	(実績)	
訪問型サービス（第1号訪問事業）					
訪問介護相当サービス（人/年）	7,248	6,280	7,536	6,081	7,788
生活支援型訪問サービス（人/年）	960	546	996	449	1,032
住民主体型生活支援（団体数/年）	1	1	2	2	3
訪問型短期集中予防サービス（回/年）	300	154	300	216	300
訪問型サービスD（移動支援） (団体数/年)	1	0	2	0	3
通所型サービス（第1号通所事業）					
通所介護相当サービス（人/年）	4,944	3,675	5,136	3,543	5,316
短時間型通所サービス（人/年）	3,816	3,736	5,508	4,303	5,796
住民主体型通いの場活動支援 (団体数/年)	9	6	11	8	13
通所型短期集中予防サービス（回/年）	80	61	80	80	160
介護予防ケアマネジメント（第1号介護予防支援事業）					
介護予防ケアマネジメント（人/年）	9,720	7,657	10,092	7,714	10,440
一般介護予防事業					
一般介護予防事業（人/年）	27,000	22,476	27,000	31,120	27,000

指標②-1**□生きがいのある人の割合**

	第7期（令和2年2月）	第8期（令和5年3月）
第1号被保険者	63.9%	63.3%
第2号被保険者	63.8%	69.5%
要支援認定者・総合事業対象者	54.5%	50.3%

※宇治市これからの高齢者の暮らしに関する調査において、「生きがいはありますか」という質問に対し、「生きがいあり」と回答した人の割合。

指標②-2**□会・グループにいずれも参加していない人の割合**

	第7期（令和2年2月）	第8期（令和5年3月）
第1号被保険者	26.0%	27.2%
第2号被保険者	17.5%	15.1%
要支援認定者・総合事業対象者	37.7%	34.0%

※宇治市これからの高齢者の暮らしに関する調査において、8種類の会・グループに「どのくらいの頻度で参加していますか」という質問に対し、いずれの会・グループにも「参加していない」と回答した人の割合。

- ①ボランティアのグループ ②スポーツ関係のグループやクラブ ③趣味関係のグループ
 ④学習・教養サークル ⑤サロン、茶話会、体操等の通いの場 ⑥老人クラブ（喜老会）
 ⑦町内会・自治会 ⑧収入のある仕事

指標②-3**□地域づくりへの参加意向（参加者）**

	第7期（令和2年2月）	第8期（令和5年3月）
第1号被保険者	46.5%	56.3%
第2号被保険者	53.4%	54.3%
要支援認定者・総合事業対象者	29.7%	43.3%
要介護認定者	23.3%	25.3%

※宇治市これからの高齢者の暮らしに関する調査において、「地域づくり活動に参加者として参加したいですか」という質問に対し、「是非参加したい」又は「参加してもよい」と回答した人の割合。

目標の評価方法

●時点： □中間見直しあり 実績評価のみ

●評価の方法：介護予防・日常生活支援総合事業の見込み量をもとに進捗確認を行う。

取組と目標に対する自己評価シート（実績評価）

（市町村名：宇治市）

年度	令和4年度（2022年度）
----	---------------

実施内容、自己評価、課題及び対応の方向性について

（1）健康増進・生活習慣病予防・フレイル予防の推進

- ・健康教室・健康相談の開催や、保健師等を派遣し、地域における健康教育の普及啓発促進に取り組んだ。
- ・健康講座を開催し、介護を受けることなく自立した生活のために必要な栄養や口腔ケア・運動面での生活の工夫等について普及啓発促進に取り組んだ。
- ・市内の健康づくり・食育に関する地区組織活動を支援し、ネットワーク化することで、健康づくり・食育に関心を高める普及啓発促進に取り組んだ。

◎ロコモ予防の教室 開催数 11 回 参加人数延べ 140 人
 （R3 年度 開催数 11 回 参加人数延べ 153 人）

◎フレイル予防の教室 開催数 49 回 参加人数延べ 610 人
 （R3 年度 開催数 38 回 参加人数延べ 583 人）

◎高血圧予防の教室 開催数 4 回 参加人数延べ 35 人
 （R3 年度 開催数 2 回 参加人数延べ 9 人（コロナで 2 回中止））

◎出前講座 開催数 2 回 参加人数延べ 29 人
 （R3 年度 開催数 2 回 参加人数延べ 63 人）

☆自己評価：【○】

評価の理由（課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策として定員の制限などを実施したものの、着実に推進することができた。 ・定員を上回る参加希望者がおられ、事業に対するニーズは高い。
対応の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が自身の健康状態を把握し、介護予防や健康づくりの取組を習慣化できるよう、セルフマネジメントの推進に向けた取組を強化する。

(2) 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進

- ・生きがい・健康づくりとして、宇治源輝人（うじげんきびと）講座を開催し、健康長寿サポーターを養成し、住民主体型通いの場活動支援（通所B）の他、地域活動とのマッチングに取り組むとともに、活動立ち上げにあたっての後方支援を行った。

◎開催数 2回 新規健康長寿サポーター登録人数 24人

(R3年度 開催数 2回 新規健康長寿サポーター登録人数 12人)

- ・地域活動団体の発表の場として、「健康長寿フェス」を開催した。

◎開催日 令和5年2月25日（土） 参加人数 165人

(R3年度 令和4年2月26日（土） 参加人数 123人)

- ・「健康長寿フェス」にて、地域活動団体の活動を住民が発表し、YouTubeで発信することにより、活動者のモチベーションの向上や新たな活動への意識醸成を行った。
- ・意欲や能力がある高齢者が活動の場に関する情報を取得して生きがいづくりや社会参画につなげるため、地域資源の情報を掲載した冊子「生きがい探しのすすめ」を作成し、関係団体及び各公共施設等に配布・配架を行った。
- ・高齢者の生きがいづくりや居場所づくりの一環として、市役所8階の喫茶スペースを活用し、高齢者が主体となった『ともいきカフェ「遊々」』の立ち上げ支援を行った。(令和5年3月9日プレオープン)

☆自己評価：【○】

評価の理由（課題）	<ul style="list-style-type: none">・地域資源の情報を掲載した冊子の作成や喫茶スペースの活用等新たな取組を実施することができた。・健康長寿フェスは、令和4年度で6回目の実施となり多くの市民に参加いただいているが、さらなるすそ野の広がりを目指し、周知方法や会場、開催曜日・時間等のほか若年層にも興味を引く内容を取り入れるなど、イベントの内容等工夫が必要である。
対応の方向性	<ul style="list-style-type: none">・高齢者が生きがいある日常生活を送ることで健康的な状態を維持できるよう多様な社会参加支援を充実させる。

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の充実及び推進

- ・通所Bの立ち上げ支援（2団体）
- ・園芸を取り入れた通いの場など、通所Bとして、2団体が立ち上がった。
- ・通所B団体及び立ち上げ準備中の団体に対し、リハビリ専門職を派遣し、利用者及びサポーター両者の体力測定を行った。また、自己の健康づくりや管理をしていただくために、介護予防手帳を配付した。今後も継続実施し、通所Bの効果検証を行っていく。

- ・健康長寿サポーターを担い手とした訪問生活支援「母子草」が訪問Bとして立ち上がった。
- ・多様なメディア（PR用DVD、YouTube公開）により、訪問B等、生活支援の活動を紹介した。

- ・移動支援を検討されている木幡地区の住民等と先進地への視察等をおこない、訪問Dの取組実現に向けて検討を行った。

- ・介護予防教室の参加者（令和4年度地域包括支援センター実施の教室も対象拡大）に介護予防手帳を配付し、セルフマネジメントを推進した。
◎配布人数 796人

- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施として、ハイリスクアプローチとして個別訪問（健康状態不明者、生活習慣病重症化予防）、ポピュレーションアプローチとして介護予防の通いの場への健康教育（栄養、口腔を主としたフレイル予防教室）を実施した。

- ・一般介護予防事業の一部において、地域の身近な場所で介護予防が継続できるよう、事業終了後の自主グループ立ち上げを支援した。

☆自己評価：【○】

評価の理由（課題）	<ul style="list-style-type: none">・訪問Dの取組実現に向けた移動支援の制度構築、仲間集めに苦慮しているが、通所B及び訪問Bは新たな団体の立ち上げ支援を実施できた。・高齢者の社会参加や生きがいづくりにつながる取組については、さらに広めていくため情報発信や働きかけを継続していく。
対応の方向性	<ul style="list-style-type: none">・一体的実施については、高齢者の心身の多様な課題に対応し、きめ細やかな支援を実施するために、事業の展開を検討する必要がある。・支援が必要な人が、身近な関係の中で適切な自立支援により再び自立した生活を送るためのフレイル脱却支援の充実を図る。